

V．発掘調査技術等研修会の記録

平成21年度 発掘調査技術等研修会 開催報告

1. 目的

発掘調査においてどのような安全対策が必要か、愛知県埋蔵文化財センターと民間調査組織等の実施例に即して研修する。

2. タイトル 「発掘調査における安全対策と課題」

3. 主催 愛知県教育委員会・(財)愛知県教育・スポーツ振興財団
主管 愛知県埋蔵文化財センター

4. 日時 平成 21 年 12 月 10 日 (木)

5. 会場 愛知県埋蔵文化財センター瀬戸市桑下城跡詰所及び調査現場 (瀬戸市上品野町)

6. 内容

(1) 「発掘調査現場と安全対策」

講師 愛知県埋蔵文化財調査センター
所長 都築暢也

(2) 「愛知県埋蔵文化財センターが実施している安全パトロール等について」

講師 愛知県埋蔵文化財センター
主任専門員 小澤一弘

(3) 「国際文化財株式会社における発掘調査現場における安全対策」

講師 (株) 国際文化財 野々村光雄

(4) 「瀬戸市桑下城跡発掘調査現場での実地研修」

講師 愛知県埋蔵文化財センター
調査研究主事 宇佐見 守

(5) 「新しい空撮技術 (マイクロドローンズ他) の紹介」

講師 (株) 国際文化財 内田恭司



研修会場



研修会場

発掘調査現場には、一般の土木建設工事現場と類似する危険だけでなく、発掘調査現場固有の危険も存在している。そのため、愛知県埋蔵文化財センターでは独自の安全マニュアルを作成し、また安全パトロールを実施するなどして発掘調査現場における危険回避に努めてきた。

近年では当センターをはじめ、愛知県下の市町村でも民間調査組織の支援を得た発掘調査が増えており、安全対策について再確認する必要があるという認識から、今回の研修会を企画した。開催場所としては、当センターが発掘調査を進めている瀬戸市桑下城跡が最適と判断し、講義・実地研修をあわせて行うこととした。軍事施設である城は、本来、外部からの接近を拒むものであり、そのために設けられた各種施設こそ、発掘調査の上で、まさに危険箇所となる。発掘調査と安全対策が真正面から対立する場所である城跡で本研修を行った意義もそこにある。

講義等の概要は以下のとおりである。

(1)愛知県下のこれまでの発掘調査状況の概観と、安全対策についての考え方の推移。発掘調査はそもそも学術調査として始まっており、当初安全への対応は常識的な範囲にとどまり、明確な対応策は無かったこと、その後、公共事業に伴う緊急発掘調査が増える中で、土木建設工事現場と競合する機会が増えて土木建設業界における安全対策の考え方が埋蔵文化財発掘調査現場にも徐々に浸透していったことが挙げられる。愛知県埋蔵文化財センター版安全マニュアルもその延長にある。そして、民間調査組織の調査技術レベルに大差が無いのであれば、安全への取り組みの違いに目を向ける必要がある。

(2)愛知県埋蔵文化財センターの安全パトロールについて。安全マニュアルだけでは安全意識を高め、安全を確保することはできないので、職員が自ら各現場の安全状況を確認し、また支援業者にも同様のチェックを行ってもらうなかで、安全対策をより確かなものにする必要がある。とはいえ、桑下城跡のような遺跡では安全対策を完全なものにしようとするれば調査に支障が生ずることもある。調査目的と安全対策をどのように折り合いをつけるのか、しばしば苦慮する場面に出会うことも確かである。

(3)民間調査組織の安全対策。企業として仕事をしている以上、安全の確保は一番の重要課題である。ただ、そのためには費用もかかるわけで、調査費の設計段階から安全対策費を組み込む必要がある。そして、安全確保を最優先にすれば調査内容の変更も必要となることが当然予想され、その場合、調査目的との折り合いの付け方が問題になる。これらの点について、発注者の配慮が求められる。

(4)桑下城跡の発掘調査現場で、調査成果の概要説明を受けながら、安全チェックシートにより各自チェックを行う。

(5)「マイクロドローンズ」のデモンストレーション。電動モータで駆動するので無音であり、座標値を入力すれば空中での静止が可能で、多少の風でも位置が自動復元できる。危険な箇所の撮影に対応するだけでなく、住宅街や学校近辺での撮影にも適しており、今後の活用が期待される。

以上のような内容について、質疑応答も活発に行われ、研修を有意義に終えることができた。



「マイクロドローンズ」のデモンストレーション

